

# 成城教育

第187号

2020年3月30日

特集 建物と人・空間と人



成城学園教育研究所

「表紙」のことば

幼稚園 中森千佳

昨年度、幼稚園の秋の遠足で多摩動物公園に行きました。チーターやアフリカゾウ、ニホンザルやキリン、色々な動物に出会い、その迫力に圧倒されながらも、歓声をあげたり、目を輝かせて動物に見入り大満足な子どもたちでした。その経験から、紙粘土を用いて動物を作りしました。見た動物を思い出したり、図鑑や写真を見ながら動物の体の部位に注目し、胴体、手足、顔、尻尾、全てが体となつてつながっていることを改めて知りました。体の接続部分にはマツチ棒（着火部分がない木の棒の部分）を使い、紙粘土同士をくっつけました。紙粘土特有の感触を楽しみ、何度も捏ねて形を変えながら、作りあげました。数日経ち、紙粘土が乾いてから、絵の具で色を塗りました。筆で絵の具を混色し、自分のイメージする色に近づけたり、細かい部分は綿棒を使って丁寧に塗りました。長いまつ毛のキリンや、立派な鼻を持つ象、動物園で一番最初に見たサーバルやチーター、子どもたちの心に残った動物が今にも動き出しそうなくらい生き生きと表現されています。

表紙の写真の作者四人に話を聞いてみました。

〔番石・チーターとネズミ〕「絵の具と粘土で点々の模様をつけるのを頑張った。あと、顔をつけるのも頑張った。」難しかったところは、「足のポーズ。ネズミを狙っているようにしたかったから大変だったよ。」〔右から二番目・ウサギ、右から四番目・クマ、右から五番目・ネコ〕「足をつけるのを頑張った。取れないようにくいよい子つてしたよ。」と、実際に手で紙粘土を撫でながら教えてくれました。難しかったのは、「お顔。作るのも塗るのも大変だった。」〔右から三番目・ゾウ〕「体を作るのが難しかった。」とのことで、お気に入りには「格好良く出来たから、白い牙。曲がっているようにしたの。」〔番左・ハムスター〕「体の形を作るのを頑張った。首をつけるのが大変だったの。」

粘土を捏ねるのは、共通して「楽しかった!」と元気よく答えてくれました。

文化祭にも出展して、クラス名の「すみれ・たんぼぼ動物園」と題して、当日は沢山の来場者に見ていただきました。遠足で動物園に行き、実際に動物を見たからこそ、子どもたちのこだわりと工夫が詰まった動物たちが出来上がりました。

# 成城教育

第 187 号

©成城学園教育研究所

◆表紙：幼稚園年長組 江草允、三谷美喜、金子珠幸、白鳥織佳

「表紙」のことは 中森千佳

口絵グラビア 澤柳記念講堂―児童・生徒、教職員、卒業生らが集う空間―

カット 栗津謙吾

## ■特集 建物と人・空間と人

### 巻頭言

特集「建物と人・空間と人」について……………『成城教育』編集長 重見暁史 5

## ■特集 建物と人・空間と人

### 総論

建物・空間・ひとについての着眼点…………… 大家亮子 6

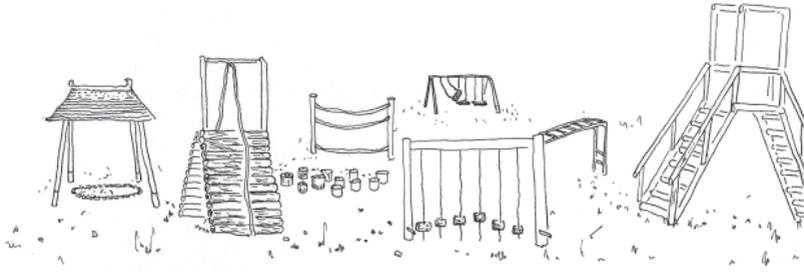
✦ ✦ ✦

案ずるより産むが易し?!…………… 保戸塚里香 13

新校舎こだわりの教室・施設等くまなび・つながり&あそび…………… 笹間俊彦 18

「せっかくお金をかけたのに……」空間と学び…………… 岡崎真幸 21

中高新校舎における「空間」…………… 皆川一弘 27



生徒の過ごす「時間」のための「空間」に	飯島 怜	31
記憶と溶け合うもの	青柳 圭子	34
瞬間の重み	鈴木純二	37
一号館の講師控え室	富山典彦	40
大学の建物（についての私見）	永井典克	44
公共施設の再生と活用 — SDGsの視点からの評価と提案 —	境 新一	47
僕たちの見ている空間	櫻井一彦	53

《大学研究室から》 成城大学での一〇年を振り返る	指宿 信	64
《ずいひつ》 祖父の足跡	友寄裕章	69
《ずいひつ》 「誰もが同じボートの中に」 — ダイバーシティの中での留学生活 —	木村裕子	73

連載コラム

成城人物誌

富本憲吉

.....

青柳 恵介 78

ブックレビュー

桜井修・小河原あや 著

春吉書房 二〇一九年一〇月

『霧に消えゆく昭和と戦中派 敗戦前後の映画的回想』

.....

宮崎修多 79

連載 成城のグリーンインフラ(第二回)

注目される成城の「みどり」と風景

.....

宮沢栄次 82

映画で見る成城学園 Vol. 17

成城出身の映画人(その5)

.....

高田雅彦 86

教育研究所報

三階に家なし 其十九 | 私のミュージアム計画 |

.....

宮崎修多 101

教育研究所への階段 162

.....

岩見寿子 104

編集後記

.....

109